

今川一丁目～二丁目

桃井一丁目～二丁目

清水一丁目～三丁目

本天沼一丁目～三丁目

天沼一丁目～三丁目

上荻一丁目

南荻窪一丁目～四丁目

宮前一丁目～四丁目

荻窪一丁目～五丁目

阿佐谷南三丁目

成田西二丁目

高井戸東四丁目



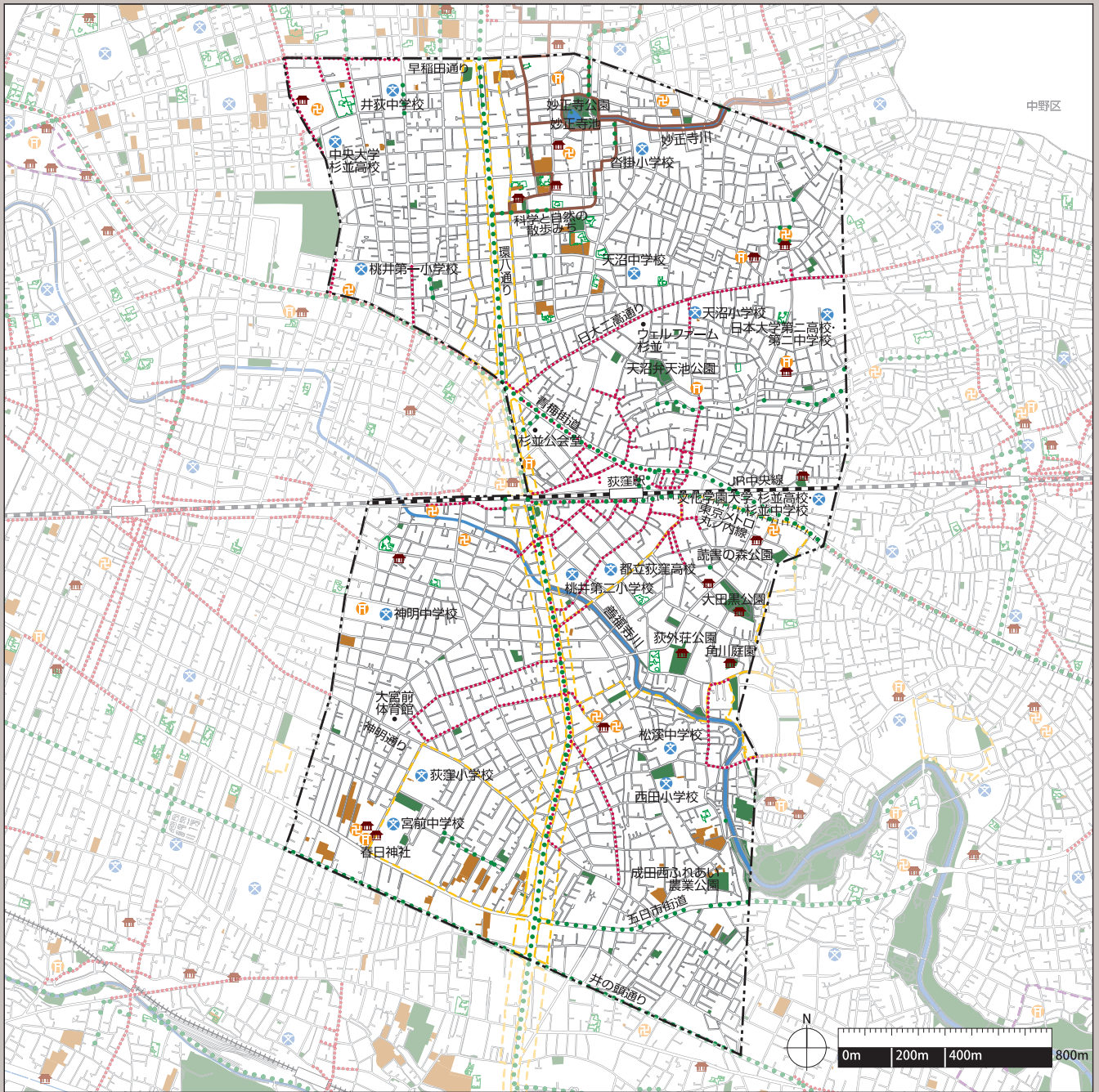
荻窪

オギクボ



大田黒公園

3 荻窪地域



区域概要図



凡例

	公園・運動場等		街路樹
	河川、玉川上水		遊歩道・散歩みち
	農地		商店街
	屋敷林		寺社
	地区計画		文化財
	風致地区		学校施設

歴史

この地域は、室町時代にはある程度の田畑、農家がありました。江戸時代に入ると新田開発も行われ、青梅街道や五日市街道沿いに農地や雑木林が広がり、農家が点在する農村地帯でした。江戸時代、この地域の北側は天沼村や下井草村、南側は上荻窪村や下荻窪村であり、ほとんどの住民が農業に従事し、野菜などを栽培していました。明治22年(1889年)、上井草村、下井草村、上荻窪村、下荻窪村の4村が合併し、井荻村に高円寺村、馬橋村、阿佐ヶ谷村、天沼村、田端村、成宗村の6村が合併し、杉並村になりました。明治22年(1889年)に甲武鉄道(現在のJR中央線)が開通し、明治24年(1891年)に荻窪駅が開設されるとともに宅地化が始まり、特に大正12年(1923年)の関東大震災後の東京市民の郊外転入により発展しました。

戦後、昭和30年代に入ると、善福寺川流域の水田が埋め立てられて団地や住宅地となり、一部が緑地として残りました。

用途地域*

青梅街道、日大二高通り及び環八通り沿道などは、商業地域及び近隣商業地域です。その他は、第一種低層住居専用地域などです。

また、環八通り沿道は、沿道地区計画*が導入されるなど、道路交通騒音の防止や商業・業務機能の集積が進んでいるとともに、天沼三丁目は、木造住宅が密集しているため東京都建築安全条例による「新たな防火規制区域*」に指定されています。

景観要素

生活的要素

北側には寺や屋敷林などがあり、比較的ゆとりあるまちが形成されています。天沼周辺は、小規模な木造住宅が密集しています。南側には大田黒公園周辺地区地区計画*に基づく建築物等の規制により、良好な住環境の維持とみどり豊かな落ち着きのあるまちなみが形成されています。

荻窪駅は区内最大の交通結節点*で、乗降客数も区内最大です。駅周辺には商業施設や飲食店などが集まり、にぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

北端を東西に妙正寺川が流れており、南側には東西に善福寺川が流れています。また、風情ある草花や池により、住宅地でも自然と触れ合うことができる天沼弁天池公園があります。南側には、農の風景の保全と都市景観の向上を図ることを目的とした、成田西ふれあい農業公園があります。

公共的要素

道路としては、南北に環八通り、東西に北から早稲田通り、青梅街道、五日市街道、井の頭通りが通っています。鉄道としては、中央を東西にJR中央線が走り、荻窪駅があります。公共施設としては、平成30年(2018年)3月にウェルファーム杉並が建てられました。また、令和2年(2020年)9月に、杉並区立中央図書館がリニューアルされ、隣接した読書の森公園とより一体となり、本と自然を同時に楽しめる施設となっています。



荻窪駅北口付近(昭和19年(1944年))

文化的要素

古くから著名な文化人が多く住んでいたことにより、別荘地等の歴史的建築物が多い地域です。音楽家・大田黒元雄氏の屋敷跡である大田黒公園、政治家・近衛文麿の住んだ屋敷である荻外荘等が点在しています。また、活気に満ちた文化芸術の活動拠点となる杉並公会堂があります。

大田黒公園では、毎年秋に、紅葉のライトアップが行われ、多くの人が集まるイベントとなっています。加えて、「荻窪音楽祭」が行われ、駅前広場や教会などでクラシック音楽を気軽に楽しむことができます。